

NPO法人ピアサポートF.A.cafeの団体紹介  
と  
進行中の事業の概要説明

令和7年2月20日



こんにちは、NPO法人ピアサポートF.A.cafe です！

アレルギー専門医や小児アレルギーエデュケーターにアドバイスをいただきながら、診療ガイドラインに基づいた小児食物アレルギーに関する啓発活動を行っています。



Since 2019/01/01

- 藤沢市を拠点に全国に発信
- 毎週火曜日を活動日とする
- 活動のきっかけは保護者間の助け合い
- 現在は大きくなった患者本人達も参加

## ①共に学ぶ

ワークショップやキッズチャレンジと名付けた患児向けイベント、大人向け講習会を定期的に企画・開催

## ②周りに伝える、働きかける

食物アレルギー患者の声から生まれたコミュニケーションツール、サポートツールを医療機関と共に制作・発行

## ③患者視点で医療に提案する

患者家族の繋がりによる調査活動と研究発表  
小児アレルギー疾患に関する社会啓発

# ①共に学ぶ

ワークショップ(患児勉強会)開催  
患児本人がアレルギーを受け入れる為に正しく理解し納得する



## ②周りに伝える、働きかける

### 食物アレルギー診療ガイドラインに基づいた 小児アレルギー疾患に関する社会啓発と情報提供

講演会主催



患者勉強会主催



東京都職員研修



県立高校啓発授業



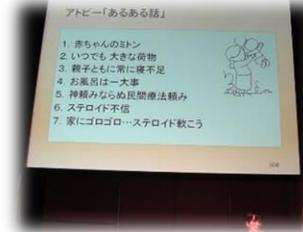
救急救命士セミナー主催



FMラジオ放送



製薬会社講演



神奈川県教委研修協力



### ③患者視点で医療に提案する、提供する

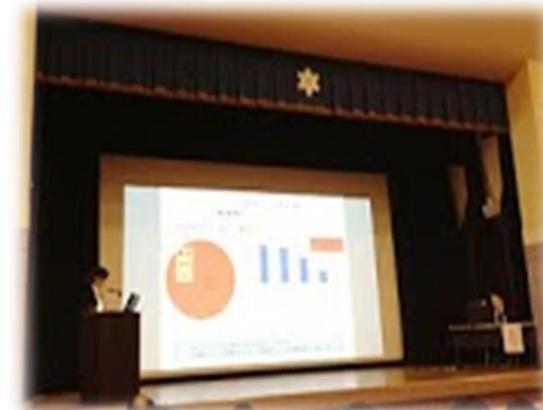
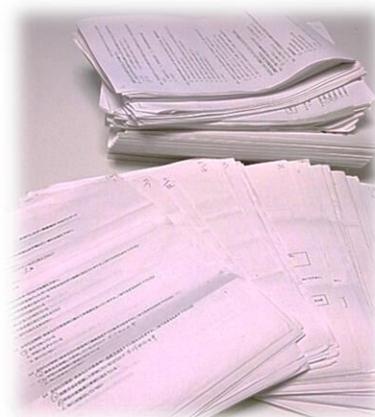
医療機関や専門医、行政と連携してアレルギーの正しい情報提供と患者支援を行っています。

サインプレートの提供

検証アンケート

保健所聞き取り調査

アレルギー学会報告



# 現在取り組んでいる活動: かながわボランティア活動推進基金21 協働事業負担金継続事業

## 事業1 園連携

未就学児対象の食物アレルギー啓発教材

協働課

福祉子どもみらい局子どもみらい部  
次世代育成課、私学振興課

ツールデザインは  
共通性をもたせ、  
相互連携させる

## 事業2 医療機関連携

食物アレルギーピアサポートブック  
(乳幼児用 食物アレルギーサインプレート)

協働課

健康医療局 保健医療部がん・疾病対策課



総合監修：海老澤 元宏 先生 事業1 監修：福家辰樹先生 事業2 監修：今井孝成先生

# テーマ：楽しく知ろう！みんなが大好きな食べ物にかくれんぼしている、アレルギーのこと

**ポイント：患児とお友達へ食物アレルギーの存在を伝え、就学後の理解と協力に向けての一步とする**

(2023年 第一回 保育士・教諭ヒアリングより)

- ・園児と保育者が**相互に対話をしながらコミュニケーションを取れるもの**
- ・園児が**楽しみながら「アレルギーを知る」ための工夫**（遊びを通しての学び）
- ・**4歳-6歳の発達段階に合わせた内容レベル**
- ・園形態や環境、集団・個別に捉われず、**保育者が手軽かつ柔軟に活用できるもの**

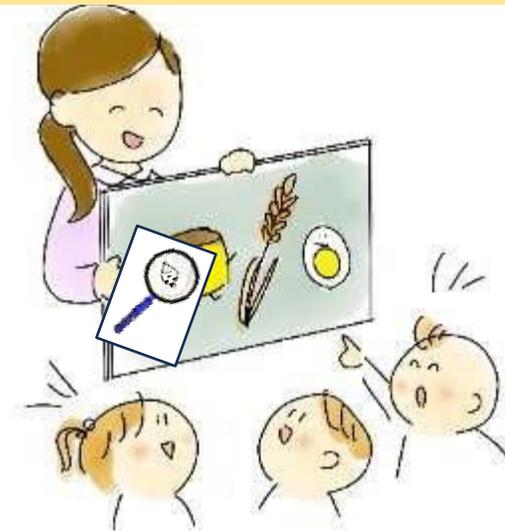
主な対象年齢

年少～年長（4歳～6歳）

展開先

県内 保育園・幼稚園・子ども園

※1年目はモニター園30園に展開、  
2年目は100園に配布、3年をかけ県内全域へ



# 啓発教材の内容

子ども

**メイン教材**  
食物アレルギー  
**たべものかくれんぼ**  
**紙芝居**

( B4判 26.5cm × 38 cm )



集団・個別で読み聞かせ。食べ物  
の原材料への興味・アレルギーを  
自然に知る

保護者

園内掲示用  
啓発ポスター  
(A3判)

園内への掲示で、大人への啓発と、心配の方は適切な医療へ繋ぐきっかけを提供する



教職員

保育士、教員が活用しやすい  
補助教材

1. 活用の手引き
2. 保護者向け啓発資料
3. 解説&活用例の読み聞かせ動画



# 保育園等における食物アレルギー事故発生防止事業 啓発教材についてのモニターアンケート

目的：令和6年度かながわボランティア活動推進基金21事業の教材内容の充実

回答者：保育園15園・幼稚園15園で紙芝居を実際に読み聞かせた先生

対象児：3～5歳児

期間：2023年12月25日～2024年3月6日

方法：WEBアンケート / 無記名式

回答数：32件

読み聞かせの回数：51回読

み聞かせ人数：約735人

## 内容を理解できる年齢

園児には難しい

6%

5歳児から

22%

4歳児から

31%

3歳児から

41%



## 食物アレルギーは好き嫌いと違うことを理解できたか

いいえ

13%

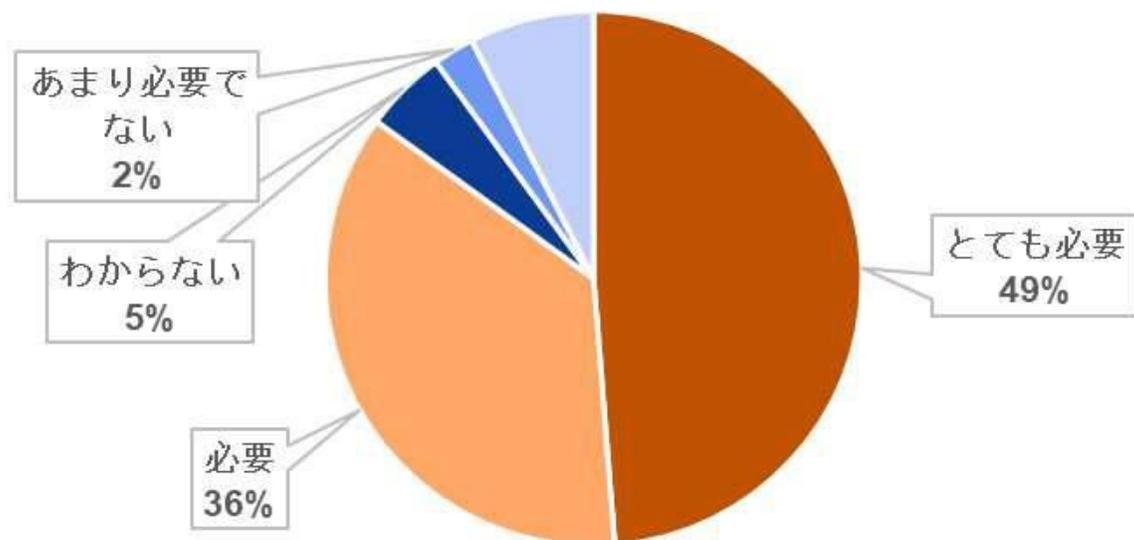
はい

87%

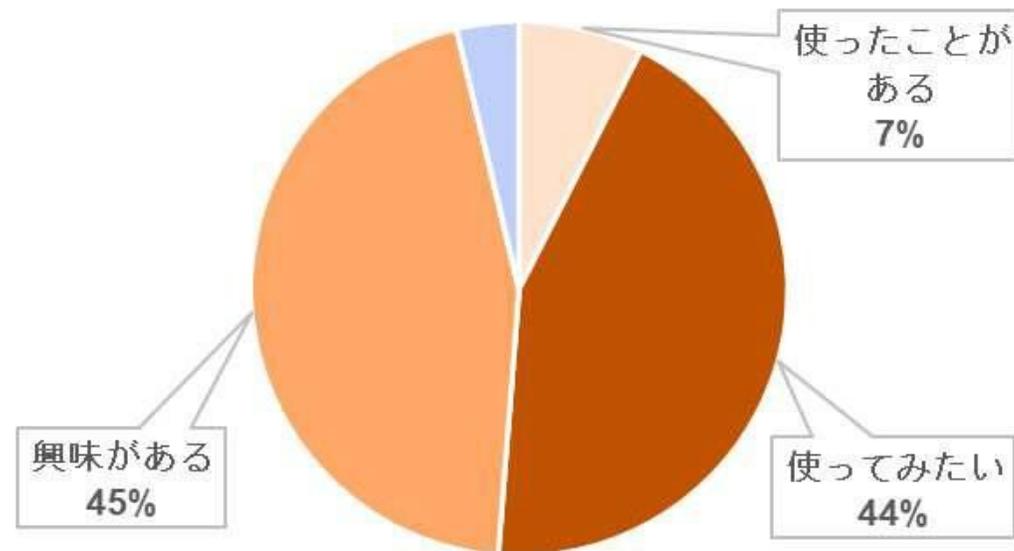


（アンケート回答数81）

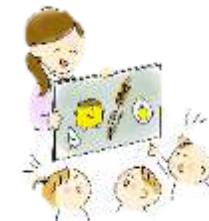
食物アレルギーをクラス全体に啓発することについて



アレルギー啓発紙芝居があったら使ってみたいですか？



クラス全体へ食物アレルギーの存在を伝え、就学後の理解と協力に向けた啓発が求められている



## 読み聞かせ後の子どもたちの様子

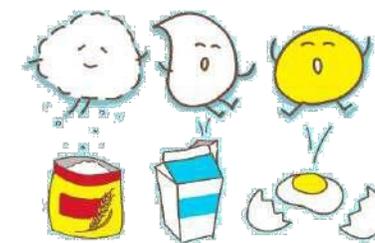
- 年少児はかくれんぼを楽しんでいた

年中児は患児が在籍、アレルギーの有無で反応がかなり違っていた

年長児は問いかけによく応え、パスタに小麦が入っていることに驚いていた

- かくれんぼの場面は楽しそうに聞いている様子、お約束やアレルギーの事について理解は難しかったようだ
- 身近な食べ物が出てくる紙芝居だったので、イメージしながらアレルギーについて知ることができていた
- 紙芝居を読んだ後に、好き嫌いとは違う事を話すと子ども達なりに真剣に聞いていた
- 面白かった！嫌いで食べられない訳じゃないんだね～と話していた！

- 毎日の献立にアレルギー食品が入っているか興味を持って調べている
- 普段の給食でもにゅうくんやたまごちゃんなどを探す姿が見られた
- 好き嫌いとは、アレルギーの違いはとても興味深く、アレルギーじゃないから食べないと！と食べていた
- 食事の中にアレルギー食材が入っていることを、気づく姿が見られた
- 紙芝居にたくさんの食べ物が出てきたことにより、どの食べ物にどのアレルギーがあるのかを理解した様子で「これは～くんは食べられないね」など子どもたち同士でも話す様子が見られた



コンセプト・啓発目的

正しく、便利な情報提供で親子への前向きな治療へのきっかけに

診断時・治療時に。親子の支えになる『食物アレルギー ピアサポートガイド』

…ピアは同じ境遇、経験を持つ仲間、サポートは支えいや助け合い



患者保護者へ

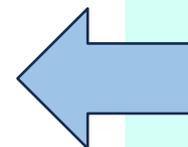
診断を受けた不安を少しでも和らげ、これからの生活・治療を前向きに進む一歩に。

保護者による自己判断の食物除去を抑止する。



患児へ

サインプレートの制作を通して感覚的にアレルゲンを見る・知る機会を。親子との会話を通じて食べることって楽しい！を伝える手段として。



医師から渡す

診断・生活指導の補助資料として患者に渡す。保護者による自己判断の食物除去を抑止し、医師による正しい診断と指導に繋げる。



# 啓発冊子掲載内容

配布冊子  
A5サイズ小冊子



正しく知って  
あんしん

周りに伝えて  
あんしん

そなえて  
あんしん

れんしゅう  
ワーク

サイン  
プレート

- ・ 必要最小限の除去
- ・ 食品表示の知識
- ・ 除去食調理のレシピ
- ・ 非常時、災害時の備え

- ・ 親子で話すきっかけをワークで考える
- ・ サインプレートを作る
- ・ 備えて自覚する

# アレルギー専門学会に出展と研究発表を続けて、医療や行政との連携を深めてまいりました。

第40回日本小児臨床アレルギー学会学術大会  
一般演題13「食物アレルギー（調査・取り組み）」



## 未就学児対象の級友向け 食物アレルギー啓発紙芝居についての調査

NPO法人ピアサポートF.A.cafe<sup>1)</sup>

十文字学園女子大学<sup>2)</sup>、国立成育医療研究センターアレルギーセンター<sup>3)</sup>

服部佳苗<sup>1)</sup>、角野末早子<sup>3)</sup>、山口かおり<sup>1)</sup>、生葉しのぶ<sup>1)</sup>

林典子<sup>2)</sup>、福家辰樹<sup>3)</sup>

2024年7月14日



第40回日本小児臨床アレルギー学会  
ブース出展しました



第40回日本小児臨床アレルギー学会にて基金21に関する報告をしました

# 神奈川県モデル 医療現場からも保育現場からも同じキャラクターと同じ言葉で伝える、学ぶ

## 【幼稚園、保育園で】

啓発紙芝居でクラスで楽しく学ぶ



プリンくんが  
いるから  
安心だね



## 【小児科、医療機関で】

待合室に掲示、資料を患者に配布



食べ物かくれんぼのお話し面白かったね



この前病院でプリンくん見たよ!

園の先生もみんなにお話ししてくれたよ



食物アレルギーだから気をつけよう

## 私たちが未就学児を対象にした食物アレルギー啓発教材を制作する理由とは

- ・ **患児だけを守るのではなく、周囲の子ども達も納得できるように**

子どもは子ども社会の中で毎日を生きている、友人が受け入れてくれることが何よりの支援  
患児本人だけでなく周囲の子ども達の好奇心や疑問にも説明が必要

- ・ **医療と繋がり正確な診断を受けることが治療の第一歩だから**

好き嫌いや思い込みではなく食物アレルギーと診断された患者だから協力が必要  
アレルギーの不安や疑いがある患者を医療機関に繋いで正しい診断を受けてほしい

- ・ **日々子ども達と過ごす先生方の負担軽減の一役を担う**

保育士や教員が、医療や疾患に関する内容を、幼児がわかるように伝えることは難しい  
教材セットの活用、イラストで可視化することで伝えやすくなる



どうぞよろしくお願ひいたします。